

単収・食味 UP を目指して ~黄化割合を確認して刈取適期を見極めましょう~

①異物異品種混入防止(GAP の実施)

コンバイン・乾燥調製機械一式・施設内の清掃点検の徹底、作業圃場の品種確認を行いましょ。

②適期刈取り

圃場毎の登熟状況(黄化状況)を確認し、適期に刈取りましょ。
 (黄化割合 80~90%が適期です。)

③乾燥調製

水分(目標玄米水分 15.0%以下)と適正量目(30.5kg)の確認、ロールの閉めすぎ注意。

展示圃の生育状況 (ひとめぼれ平均) 成熟期調査結果 (穂数は株当)

8月27日調査	稈長(cm)	穂長(cm)	穂数(本)
当年値	83.2	18.0	26.1
平年値	83.6	17.9	25.7
平年対比	99.5%	100.3%	101.5%

異物・異品種混入防止対策の徹底

異物・異品種の混入は産地(生産者)の責任です!!

ポイント①:コンバイン・乾燥調製機械一式・施設内の清掃点検の徹底、
 作業圃場の品種確認を行いましょ。



1. 異物混入防止(石・小枝・ガラス・金属片・ねずみ糞など)

毎年、小石等の異物混入のクレームが発生しています!

- ① 収穫・乾燥調製機械一式(施設)の清掃・整備の徹底。
- ② 水田内の清掃(特に道路沿いの水田)。
- ③ 機械稼働始めの米は飯米対応する。
- ④ 乾燥調製施設内にジュース缶等は絶対置かないようにしましょう。
- ⑤ 水田内の雑草種子の混入に注意ましょ。(クサネム 図参照)



缶類・ビン類・ペットボトル・電池類

※水田雑草「クサネム」を確認した場合は手取り除草をましょ。抜き取ったクサネムは畦畔に放置しないようにしましょう。万が一、クサネムの種子が玄米に混入すると、除去する事が困難になります。

2. 異品種混入防止(異品種・モチ米など)

- ① 清掃の徹底(収穫・乾燥調製機械一式・施設)
- ② 作業圃場の品種確認
- ③ 集出荷時の品種および作業工程の確認



水田雑草:クサネム

3. 玄米への臭いの付着について(移り香防止)

- ① 油の臭いがするとのクレームが来ております。近くに油類は置かないようにしてください。
- ② 不完全燃焼防止のため、収穫機械・乾燥調製機械等に、不良燃料を使用しないでください。

**異物・異品種混入防止のため、事前にコンバイン・ハーベスタ
 乾燥機・籾摺り機等の点検清掃は、必ず行いましょ。**

適期刈り取りの目安

適期刈り取りによる品質・食味の向上を目指ましょ。

ポイント②: 圃場毎の登熟状況(黄化状況)を確認し、適期に刈取りましょ。

刈り取り時期は、出穂後の積算温度と穂の熟色(黄化状況)を総合的に見て判定!

1. 出穂後の平均気温積算値による刈り取り時期の推定

- ① 基準日を確定させる……出穂 40~50%の時期(出穂期)。出穂期から 45 日前後。
- ② 積算温度による刈り取り適期幅(範囲)を把握する。
 ※ひとめぼれの場合、積算温度 900~1050℃が適期刈り取り時期の目安となります。
- ③ 基準日を積算温度到達の予測に当てはめ、刈り取り時期を推定する。



■衣川地域、今後の積算温度到達の予測

(8月28日現在)標高は各地区公民館で算出

標高	参考地区	出穂期 (月/日)	刈り取り適期積算気温到達期間(月/日)			
			900℃	950℃	1,000℃	1,050℃
190m	外の沢・衣原 大平・大森 檜原・嚙味	7月29日	9月3日	9月5日	9月7日	9月10日
		8月1日	9月6日	9月9日	9月11日	9月14日
		8月6日	9月13日	9月15日	9月18日	9月21日
150m	有浦・西の窪 大原・畦畑	7月29日	9月2日	9月5日	9月7日	9月9日
		8月1日	9月6日	9月8日	9月11日	9月13日
		8月6日	9月12日	9月15日	9月18日	9月20日
100m	天田・桑畑 小安代・日向 河内・滝の沢	7月26日	8月30日	9月1日	9月3日	9月5日
		7月29日	9月2日	9月4日	9月6日	9月9日
		8月3日	9月8日	9月10日	9月13日	9月15日
70m	懸田・石神 南股・岩の上 古戸・長根	7月26日	8月29日	9月1日	9月3日	9月5日
		7月29日	9月1日	9月4日	9月6日	9月8日
		8月3日	9月7日	9月10日	9月12日	9月15日
50m	六道・寺向 富田・張巾	7月26日	8月29日	8月31日	9月3日	9月5日
		7月29日	9月1日	9月4日	9月6日	9月8日
		8月3日	9月7日	9月10日	9月12日	9月15日
30m	川西・川東 池田・瀬原	7月26日	8月29日	8月31日	9月2日	9月5日
		7月29日	9月1日	9月3日	9月6日	9月8日
		8月3日	9月7日	9月9日	9月12日	9月14日

※高温年は茎葉の枯れ上がりが遅い割に籾の黄化が早く進みますので、積算温度だけでなくほ場の黄化割合をしっかりと観察し、刈り遅れにならないよう注意ましょ。

2. 穂の熟色による判定 ~1の積算温度で推定した時期に到達後、判断する~

生育が平均的なところの穂の中で、1穂の籾の 80~90%が黄化
 (または親穂の 90%が黄化)した時点が刈取り適期の目安となります。

3. 刈り取り期間の目安

刈り取り期間は、刈り始めから 2 週間が目安となります。

穂軸が褐色になると胴割れ米や茶米が多くなるので注意ましょ。

	黄化籾 70%	80%	85%	90%	95%
自然乾燥	刈取り早い	刈取り適期		刈遅れ	
機械乾燥	刈取り早い	刈取りやや早い	刈取り適期	刈遅れ	

表1:黄化籾の割合による刈取適期(岩手県農業研究センター研究レポートNo 165より)



穂基部に10%程度
 緑色が残る状態
 穂の熟色による判定

刈り取り作業 ～全体的に青みがなくなるころが刈り取り適期～

1. コンバイン刈り

- ① 籾水分が **25%以下**から始め、2 週間以内に刈り取りましょう。
 - ② 収穫後の生籾は、ヤケ米防止のため、速やかに乾燥機に張込み乾燥をしましょう。
 - ③ 収穫は午前 10 時頃～午後 5 時頃を目安とし、籾が濡れている時間帯の刈り取りは避けましょう。
 - ④ 品質の均一化のため、**生育が遅れた場所や倒伏・穂発芽のあった場所、病虫害の被害があった場所**については**刈り分け**を行いましょ。
 - ⑤ 適期を過ぎての刈り取りが予想される場合は、所有する乾燥機とカントリーエレベーター等の体系を組み合わせ、1 日の刈り取り面積を増やし品質保持に努めましょう。
- ※上記対策を講じてもコンバイン作業受託面積が多く、明らかに刈り遅れが予想される場合は、**他の受託者に応援要請するなど、品質保持最優先で胴割粒などの品質低下防止に努め**ましょう。

2. バインダー刈り

～刈り取り適期幅でもやや早めの刈り取りが望めます(棒掛け期間も登熟は進みます)～

- ① 刈り倒し後はその日のうちに棒掛けとし、**地干しは絶対にしない**ようにしましょう。
- ② 棒掛け乾燥期間は 20 日を限度とします(乾燥期間が長いと胴割れの原因)。20 日間を越えても水分が適正より高い場合は、カントリーエレベーター等の施設を利用し品質低下を防ぎましょう。

乾燥調製

ポイント③:水分(玄米水分 15%以下)と適正量目の確認(30.5 kg)・ロールの閉めすぎに注意

異物・異品種混入防止に機械の清掃を徹底しましょう!



- ① **二段乾燥を基本とし、籾水分が 16～17%程度で一時中断・放熱後、再度火力乾燥して、仕上げ水分は 15%以下に仕上げ**ましょう。
※乾燥終盤(仕上げ時)は手持ち水分計→で確認・チェックしましょう。
(乾燥機の水分計が正確とは限りません。)
- ② 乾燥機への張込み量は、80%を目安としましょう
(多すぎても少なすぎてもトラブルのもと)。
- ③ 急激乾燥や高温乾燥は品質・食味低下となるので、絶対に行わないようにし、晴天時は設定基準より5℃程度低めに設定し、乾燥調製を実施しましょう。
- ④ もみ摺りロールの点検調整は必ず行い、適正流量での作業に努めましょう。
- ⑤ 1 袋当りの量目、**皆掛 30.5 kgを必ず確認**しましょう。



※資材センターで取扱っております

出穂・開花にバラツキのあった圃場や倒伏した圃場では登熟程度・水分分布に大きな差があります。乾燥機の手動設定による高温急激乾燥は、乾燥ムラを引き起こし、胴割れ粒の発生を助長します。火力乾燥作業は慎重に行い、胴割れ粒等の発生・品質低下を防ぎましょう!!

収穫後の圃場管理

1. 排水対策の実施

コンバイン作業後、クローラーの巡回後などに溝ができ、水が溜まりやすくなる事から、速やかに排水が進むよう溝掘りを行い、乾田化に努めましょう(稲わらの腐熟促進にもつながります)。

2. 稲わらの秋鋤きこみ

生ワラのすき込みを行う場合は、必ず下記腐熟促進資材を適正量散布し、可能な限り気温の高い時期に行いましょう。(微生物の活動が活発なので、ワラが腐り易い)

※ 移植後にガス湧きが強くなる圃場がある場合は、確実に実施しましょう。

資材名	10a当りの使用量	資材の特徴
ふるさと大地 2号(秋)	2.5 袋 (50 kg)	土壌改良+腐熟促進
ペレット鶏糞	3~5 袋(45~75 kg)	腐熟促進+地力増進(有機入)
ワーコム 10	1 袋 (10 kg)	微生物でわらの腐熟促進
石灰窒素	0.5~1 袋 (10~20 kg)	腐熟促進

※ 石灰窒素は、腐熟促進を目的として秋施用する場合のみ、農業および化学合成窒素としてカウントされません。2 袋以上使用するとノビエに対する除草効果がありますが、特別栽培米は外れます。また、来春の窒素成分を減肥する必要もありますので使用の際はJAにご相談下さい。

3. 畦畔除草剤の使用(斑点米カメムシ対策)

近年、畦畔の草刈りにかかる作業時間が増えているだけでなく、畦畔雑草がカメムシ被害を助長する要因となっています。その対策として秋の畦畔除草剤の散布をオススメします。秋に畦畔除草剤を散布するメリットは主に下記 3 点が挙げられます。



- 1. 翌春の草刈り作業回数を省略できる。
- 2. カメムシの翌春の生息場所が無くなるため、被害を抑えることができる。
- 3. 野ネズミの越冬場所を無くすため、畦畔の崩れや漏水の原因を減らすことができる。

但し、使用の際には強風時の使用を避け、飛散(ドリフト)防止用カバーを使用するなどして周辺作物への被害がないように配慮願います。使用例については、下記表を参照。

資材名	希釈倍率	散布液量(10a 当たり)	使用時期
ラウンドアップ マックスロード	100 倍液 ※ラウンドアップ ULV5 使用時は 10 倍	少量散布時:200~250 mlを 20~25lの水に希釈(※ラウンドアップ ULV5 使用時は 500 mlを 5lの水に希釈)	収穫後(畦畔雑草が枯れる前) ※おおよそ 11 月末まで
サンダーボルト 007	100~200 倍液	400~600 mlを 100lの水に希釈	
バスタ液剤		500~1000 mlを 100~150lの水に希釈	

※8 月一斉外務にて、申込書を配布していますので、是非ご検討ください。

水稻栽培管理記録簿・水稻農業生産工程管理手法(GAP)チェックシートへの記入について

■記録用紙の内容を確認し、取り組み項目に応じてチェックしましょう。

～令和 6 年産 GAP チェックシートの取り組み(9 月編)～

令和 5 年産の GAP チェックシート集計結果からチェック率の低い項目を毎月紹介しています。令和 6 年産ではチェック欄に○がつくよう取り組んでいきましょう!
「(必須項目)収穫した米に異物が混入していないか、点検している(乾燥・調製時)」(63.5%) 「(必須項目)出荷するすべての米についての出荷記録を持っている」(60.7%) →必須項目は特に意識して取り組むようにしましょう。

■営農指導に関するお問い合わせは… 平日 午前8:30~午後5:00

衣川地域センター営農経済課 52-3212
営農アドバイザー携帯電話 080-5559-8955(小野寺 良)
080-6027-6137(伊藤 俊義) 090-4478-9918(高橋 明子)

■生産資材・生活資材のご注文・配達…

拠点配送センター 0120-516-911(フリーダイヤル)

■生産資材等の直取り・窓口供給は… 営業時間:午前8:30~午後5:00

衣川資材センター 52-3214

休日対応 土曜日 午前8:30~正午 ※日曜・祝祭日は休業します



LINE にて営農情報を発信中です! 上記 QR コードからお友達登録をお願いします。

秋の農作業安全月間に入ります!! 9月15日~11月15日
「ひと休み 急がば回れ 農作業 ゆとり忘れず 安全管理」